

高 峰 登 山 報 告 書

国名	ネパール	山名	ジャルキャヒマール	標高	6473 m	地域名	ネパールチベット 国境部
隊名	6Summits			派遣母体	なし		
通常の登山以外は下記の中から該当するものを○で囲んでください。							
組織内公募登山		一般公募登山		国内商業登山		外国商業登山	(○) その他
連絡先	氏名: 野村良太						
	FAX						
	住所: 〒						
登山内容							
*登山期間(本隊の日本出国から帰国まで) 2023年 3月 31日 ~ 5月 15日							
*ルート名: ジャルキャヒマール 南東尾根 Hindu氷河							
(各隊によって名称が異なりますので低い順から訂正してください。)							
*キャンプ配置と設営日(隊員が初めて宿泊した日を設営日としてください。) 設営場所(※日の後に××氷河右岸とか○△尾根上など、平易に記して下さい。)	仮 BC		m		月	日	
	BC	4550	m	4月	15	日	Hindu氷河中央部
	ABC	4950	m	4月	19	日	同氷河左岸
	C 1	5700	m	4月	27	日	左岸尾根(ジャルキャヒマール南東尾根)
	別 C 1	5200	m	5月	2	日	同氷河中央部
	C 3		m		月	日	
	C 4		m		月	日	
	C 5		m		月	日	
AC		m		月	日		
*登山の成否:	成功	(断念)	最高到達点	6270	m地点	4月	28日 13時頃
*酸素:	(持参しない)	持参した	医療用のみ	睡眠用	行動用		
使用実績:	睡眠時のみ	から使用	行動中	医療用使用			
*固定ロープ:	持参しない	(200 m持参した。)	使用実績[なし]				
事故内容(死亡事故または重大な事故について記入してください。)							
*原因	[表層雪崩 懸垂雪崩 その他] 高山病			転滑落	その他	行方不明(
*事故発生日:	月	日	時	分頃			
*事故発生高度:	m						
*死亡者名	1,	2,	3,	4,			
*事故の概要	なし(クレバスへ滑落するも無傷)						
隊の構成(都市滞在だけの方は除いてください。氏名のふりがなはローマ字でお願いします。)							
	氏名	フリガナ	性別	生年月日	歳	登頂日	電話番号
1	齊藤 大乗	Saito Daizyo	(男)・女		才		
2	杉本 龍郎	Sugimito Tatsuro	(男)・女		才	月 日	
3	竹中 雅幸	Takenaka Masayuk	(男)・女		才	月 日	
4	野村 良太	Nomura Ryota	(男)・女		才	月 日	
5			男・女		才	月 日	

高所ポーター(登攀活動に従事した者のみ記入してください。)ガイド=G、サード=S					
氏名	年齢	登頂日	氏名	年齢	登頂日
1	才	月 日	3	才	月 日
2	才	月 日	4	才	月 日
連絡官	Chet Gurung		歳) 通訳	歳)	
BC要員	コック	Grg Jagadish	キッチン		
報告書	書名		判形	判 頁	年 月 発行
その他発表した記録	日本山岳会会報4月号ユース版「山」、日本山岳会会報「山」				
登山概況					
<p>3月末に日本を出国し、4/5にキャラバン開始。4/15にBC入りした。その後、ルート偵察、ABCの設置、悪天候停滞、体調回復等を待って、4/27に最初のサミットプッシュを開始した。</p> <p>最速で4/28の登頂を目指したが、想定以上の長丁場と、地形図にないアップダウン、ブルーアイス、高山病の症状、天候悪化などが重なり、一時撤退となった。</p> <p>レスト日を挟んで5/1に再度山頂を目指したが、今度は先頭の隊員がクレバスに落ちるなどのアクシデントがあり、また直前の大量降雪などでヒドゥンクレバスが多く発生していることが確認できたためそれ以上の前進を断念した。</p> <p>5/4に撤収を開始し、5/10にカトマンズへと戻った。</p> <p>カトマンズで装備の片づけ等の後、5/15日本へ帰国した。</p>					
概念図			山の全景写真		
NEPAL 1:50 000 			SĀMĀGĀŪ 特記事項 自分たちで撮った全景写真がないため掲載できません。		
天候の状況					
BC入り直後(4/16)から数日は天候が安定していたが、それ以降は終日晴れることは一度もなかった。午前中は晴れていても午後には吹雪となり、そのまま明け方まで降り続けることが多かった。唯一のチャンス日と思われた4/28も午後には雲がわき、途中撤退を余儀なくされた。BC設営時は無雪期状態だったが、撤収時には新雪が30cmほど積もった状態となっていた。					

<p>雪崩情報(被害が無いものについても発生状況を記入してください。)</p> <p>降雪があった翌日を中心に、BC周辺で断続的に観測。行動中など計画に直接の支障が出る規模の雪崩には遭遇しなかった。ただし、大量降雪によってBCでの天候待ちを度々強いられ、思うように行動出来ない要因となった。</p>	
<p>テイクイン、テイクアウトを報告してください。</p> <p>Chet Gurung氏が経営するホシトレックに現地エージェントを依頼し、現地で必要な物をあらかじめ準備してもらっていた。BC以降には残置物なく下山した。</p>	
<p>高山病予防薬として医薬品を使用しましたか？ <input checked="" type="radio"/> した <input type="radio"/> しない (下記に内容を記入)</p> <p>4/28の登頂目標日に6000mを越えてから使用した隊員がいた。ダイアモックス半錠。バファリンなど。</p>	
<p>入山時の特記事項(ローカルポーター、使役動物の雇用状況、道路状況など)</p> <p>最奥のサムド村まではホシトレックのスタッフ(6名)とロバ(17頭)で移動した。 サムド村からBCまではサムドの村人とヤクにポーターを依頼した。現地交渉はChet Gurung氏に委託した。</p>	
<p>連絡官、高所ポーターなど現地スタッフの情報</p> <p>ホシトレックのスタッフが精力的に動いてくれた。 BC設置時点では例年より融雪が早かったためか、サムドの村人は積極的に協力してくれた。 残雪が多い場合の交渉は難航することが予想される。</p>	
<p>同じ山、山域に入山していた他隊の情報についてお知らせ下さい。(登山隊名、人数、隊長名、連絡先、ルート名 登山結果など分かる範囲で結構です。)</p> <p>東京農業大学OB会マナスル登山隊 NHKグレートヒマラヤトレイルマナスル撮影隊 グレートヒマラヤトラバース登山隊 (重廣恒夫隊長他)</p>	
<p>その他の情報(登山だけではなく、地域情報などありましたらおしらせください。)</p> <p>今回の遠征時点ではマチャコーラまで車で移動となったが、現在進行形で工事が進んでいるので近いうちに(2024年?)ジャガットまで車で入れることになる予定。(現地サダー談) 最奥のサムド村まで全ての村でWi-Fiが設置されていて(接続は不安定なことが多い)、 今後さらに開発が進められるものと思われる。</p>	
<p>現地エージェント:</p> <p>名称: Hoshi Treks and Expedition P.Ltd ホシトレック 住所: Kathmandu -3 ,Nepal TEL 01-4002002 9841978346 FAX e-mail info@hoshitreksnepal.com 評判: 日本語が出来るスタッフが多数在籍し、BCでは日本食を作ってくれるなど日本文化への理解がある。</p>	